

# 携帯電話との付き合い方

島根県松江市立八雲中学校 2年 大塚 薫



私は中学校に入学すると同時に携帯電話を持ち始めました。今ではクラスの八割が持っています。持ち始めた理由としては、親や友人との連絡手段としてですが、一番の理由は「みんなが持っているから」「私だけ仲間外れにされたら嫌だから」という気持ちが大きかったように思います。

携帯電話を持つようになると、楽しいことばかりでした。いつでも、どこにいても、友達とやり取りが出来るし、グループラインなどで多くの人とつながれる楽しさがありました。一日、100件のラインが入ってきたこともあります。他にも、親や友達と事前に計画を立てなくても、その場その場で待ち合わせなどを決めることが出来たり、連絡がすぐに取れるので、前もって計画をしなくてもいいようになりました。また、人のやり取りだけでなく、インターネットから必要な情報がすぐに手に入るようになり、本や辞典、人に聞いたりなど、自分で調べるという手間がなくなりました。また、動画も見ることが出来るので、少しでも空いた時間があると動画を見て、退屈な時間がなくなったように思います。

このように、携帯を持つようになってからは、携帯電話は私の生活になくてはならないものになりました。手元に携帯がない生活は考えられず、携帯が見えなくなると、不安になって動揺してしまいます。携帯電話を持っていない時、自分はどのように生活していたのだろうと思うほどです。友人のやり取りも携帯電話が必要な生活になっています。

しかし、携帯電話を持つようになって半年もすると、徐々に困ったことも出てくるようになりました。

まずは、「時間の消費」です。中学生になり、定期テストなどで学習の時間の確保が必要になりました。テスト前であっても、友人のやり取りは続き、勉強しないといけないと焦る気持ちと、友人にきちんと返信しないといけないという気持ちで、更に焦るようになりました。また、こんな状況でも目の前に携帯があると、少し休憩だからと自分に言い訳を作り、つい動画を見てしまいます。そうすると、ふと気づくと一時間も二時間も時間が経過していたこともあります。

また、友人のやり取りの中で、直接声を聞いての電話は良いのですが、ラインだと相手の顔や表情、声のトーンなどが分からないので、どのようなニュアンスで伝わるのか、どのように相手が受け止めるのかで相違があって、誤解を生んだこともあります。短い文でのラインでは、絵文字を使わないと「怒っ

てる？」と聞かれたり、逆の立場だと、「友人が自分の文で何か誤解をしてしまったのではないか」と、一気に不安になり、何度も自分の打った文を読み返したりしていました。「短い文でのラインでは、相手の本心が伝わらない」ということを感じました。

そして、最も怖いのが「知らない人とのつながり」でした。SNSでは、不特定多数の人たちが、相手の投稿や自分の投稿を見ることが出来ます。私は、友人や親などと決まった人としか設定よりつながれないようになっていますが、一部の友人は知らない人とのつながりで怖い思いをしそうになったこともあります。携帯は非常に便利で楽しい反面、使い方によっては時間の消費や、誤解からの人間関係に亀裂が入るものだったり、また、非常に危険なものであると携帯電話を持ってから知ることになりました。

携帯電話のメリットな部分とデメリットな部分を知り、今後どのように携帯と付き合っていけばいいのか考えるきっかけになりました。使い方を間違うと、私たち中学生ではとても手に負えない事態になると怖さも感じています。ただ、大人がいくら制限しても、色々な方法で、その制限の抜け道があることも知っています。大人からの「制限」ではなく、自分たちの中にある常識で付き合っていくしかないと思います。

私は携帯を持ってから、自分で事前に物事を計画する力、自分の力で調べる力、緊急事態や予測しない事が起きた時の力が弱くなったと感じています。それは携帯に頼りすぎているからだと思っています。現在、世界では戦争や災害など、予測しない出来事が多く起こっており、自分で考えて行動する力を身に付けたいと思いました。また、人間関係では、顔と顔を合わせてのコミュニケーションを日々大切にしないといけないと思いました。携帯電話は適度に必要な時に利用しながら、中学生の自分たちは、友人や出来事にきちんと向き合うことが大切だと思います。